

教育が學習時間だけでおわるものでないことはわかりきつたことながらかならずしもそのようにその他の時間においてかならずしもよいみちびきがおこなわれているとはいへない。

そしてそのためにせつかくの學習までがうまくゆかないというところもある。それで私はその學習以外の時間をどんなにみちびいてやればいゝかについて、すくない私の經驗をもみにしてのべてみようと思ふ。

まず朝の時間であるが、私は學習がはじまる三〇分くらいまえには必ず教室にゆく。子供たちはまだ少ししか来ていないかもしれない。私がいってゆくと子供たちがあかざい聲で（おはようございます）とあいさつをする。私は子供のあ



學習時間以外のみちびき方

近藤 益雄

たまをなでてやつたり、冬だとひえきつた手をあたゝめてやりながら、それにこたえる。そして子供たちこしよに窓をあけはなつ。寒い日雨の日はそれを又すぐしめてやる。自習はきのうひけてかえるとき、黒板にかいておいた問題をさせてもよい。しかし私はそんな問題でなしに、自由に自習をするのをのぞむので、だん／＼問題を出さないでもよいようにしむけてゆく。何よりもその日の學習計畫が子供によく分つていることが大切で、それさえできていたら、この自習もらくにできる。しかしそんな自由なものだけではなくて、ききには一せいに何か練習をする。ローマ字をかいいたり、ひらがなのけいこをしたり、計算練習をしたりする。それもかねてしつけさえよくやつておけば子供たち自身の手で問題を解し

あつてやることができる。あるいは、教室に備えつけてある（自習問題集）をつかわせる。この問題集は子供たちのちららにふさわしいように三三おくりのちがつた問題集のノートを一つつておいてちからのちがいによつてわけたグループに別々につかわせる。それに自習をしたらそのあとが子供たちにもちやんごわかるようにグラフィックをつくつておいてはけまじやたすけあいやいましめあい、よろこびあいをそのあゆみのつえをやらせるようにする。又自習をしなくても時にはそとにつれだして自然をみさせたり、かるい体操をさせたりする。あるいは作法の練習をしたり、あるき方の練習をしたりもする。その日が衛生日というのならば手あらいや爪きりをする。子供たちの右手の爪をきつてやつたり、手あらいをよくみていつたり、時には歯みがきのしかたをおしえたりしていると、子供とのつながりはふかさをましてくる。

この時間にはその日一日の学習準備だけはちやんとしておくようにしたい。學用品をそろえさせたり、實驗道具の用意をしたりする。時にはきのうかいた圖畫をみんなでも一どみて話しあつたり、教室のものもよくことのえたり、掃除をしたりもする。整頓のことにはことに力をいれたい。教室にあつては何もいつても教卓や教師の事務機のうえやまわりがみだれてはならない。それが子供にどんなにさしひびくか少しかんがえてみるこわかることだから、よくよく注意した

しずかに考えてみよう。子供も私たちは、ほんまに仲よしになつていようか。ほんまにこつよいきづなでむすびついているだろうか。私たちの血管も子供のそれとつながり、私たちの血が子供たちの体のうちにつきこまれるこつうになつていようか。遊ぶここのねうちは實にその点にある。そこからはじまつて私たちの教育がほんまのものになることを忘れてはならない。

雨の日のあそび時間になるこ、なかなかうまくゆかない。それをうまくやるためには、よい室内用の遊ぶ道具がないこいけな。かるたもわなげもトランプもコリントゲームも、おはじきも風船もあつていゝではないか。そんなものをあたえもしないで子供をしずかにへやのなかにおしこめておこごする訓練主義やたださわぎたいままにほうつておいて、こきにけがなごさせるわがまま主義はどちらもよくない。私たちは子供の遊ぶを子供の生活としてみちびきたい。すきな本をよんだり繪をかいたり、レコードをきいたり、劇のまねをしたり、私たちと話をしたり、などなぞや二十の扉のあそび

そんなものがほんとうにたのしめる子供にしたい。それが子供が文化として實は私たちがもつこひろい場でこりあけなくてはならないことだ。書の間、これは一日中で一ばん大切なしつげの間だ。まず子供たちに手をあらわせる。子供のためにお茶を用意する。そしてみんなしずかに食事をはじめる。そのとき私たち

さて始業の鐘がなつても子供が學習できていないこつううなこつがあつてはならない。ともかくこの子供こしよにはじめるきよのいとなみのために、朝の時間は實に大切だ。しかもそれがべつに法的に私たちに要求されているものではないので、それが生かされるこつによつて、子供えのよ

いさしひびきは大きい。おひるまでに休みの時間が五分間くらいある。これはほんまに私たちに子供にも休み時間でありたい。便所にいつたり水のみにいつたり、深呼吸をしたり肩のこりをほぐしたり、私たちはお茶やたばこであたらしい元氣をとりかえしたりする。こつには子供といつしよにくつろいで日なたぼつこをしたり、職員室ですばやく新聞をよむ。遊び時間は二十分ある。これは子供こともに遊ぶ時間にする。子供は私たちとあそぶこつをよるこぶ。ひまさえあれば外に出たり教室のこつたりして、子供とこしよに全くの子供心になつてあそぶ。しかしそれはそうやさしいこつではない。そのためには私たちの方でいろ／＼な遊び方を工夫するがよい。

子供こ話しあつていろ／＼あたらしいあそび方を工夫するこつこつ——そのこつがこつてもよい生活の勉強になるこつとはいうまでもない。子供こ遊ぶこつによつて私たちは子供と仲よしになるこつができる。仲よしになつてはじめて私たちのさすけようとするよいこつ、すぐれたこつが子供の血や肉になつてゆく。

は子供の數をあらためてしらべる。みんなそろつて（いただきます）のあいさつをしてはじめる。子供たちの机がいくつかのグループにわかれていたら、私は毎日かわるがわるそのグループの中にはいつて食べる。子供こしよにかこんだ机の上には美しい花でも飾つておこつ。そしてみんなでたのしく食事をする。子供たちの中にはべんまのこつがないのが二、三はいる。それをみだしたら、私はすぐそのわけをたずねる。親に連絡しなくてはならぬものには手紙でもかいてもたせる。何日も欠食をつづけるものには、校長に報告して學校こして何こかしてもらう。私たちも家庭訪問をする。給食係こも話し合つて學校の問題として、これを解決する。子供こ食事を共にする——これは私のもつこものぞむところ。私たちがいないために、机にこしかけたり、立あるいたりして、べんまをたべているのがある。べんまをもたない子供が校庭の隅でしよんほりあそんでいる。たべているそばであばれて、やたらこ、ほこりをたてたりするものもある。寒い冬がきても子供はあたたかな湯一ぱいあたらえられず、私ただけが宿直室などで火にあたたまり、茶をすすつて食事をしているあいだに、子供の方はわるくなり、ほかのいろいろなしつげもマイナスになつてしまう。また私たちが教室にいるこつはいる。しかし教卓にいかめしくすわり、自分だけお茶なご用意し子供たちはつめたいべんまをたべている。それではたのしい食事こはいえない。食べおわればお話をしよきかせる

こどもなく、レコードをきかせてやることもなく——さいうのではどうしたものか。私はそんな時、上級生の場合なら新聞をもつていつてかみくだいてよんできかせる。子供たちと時局の話をする。あるいは童話紙芝居などもある。又子供と相談して子供たちに簡単な話やうたをやつてもらおう。こうして子供が食事の時間をたのしむようにしてやる。そんなとき子供はいろいろおしやべりする。そのなかからさきさき寶石のように尊いものをみいだすこどももある。

学習時間が終るに、今日の反省と明日の計畫をするために（わかれの會）をする。これをしつかりやるためには、學期月、週の教育計畫が子供にわかるようにやさしく、かかれて教室に示されていなければならぬ。子供はその表によつて日々を計畫してすすんでゆく。反省も何か表にでもかきこむような工夫をしておくといふ。またそれが學級日誌なきにちやんとかきこまれなくてはならない。その會が（わかれのうた）などでおわるに、すぐ掃除にかかると。

私たちは子供と一しよに掃除をする。子供と共に學び遊び働く——これが私の心からの願ひなのだ。だから掃除もこもにする。上衣も上げきもぬいで冷たい水の雑巾をしぼつて立上つてみよう。子供たちに千も百ものこどもは不要だといふこもがわかる。その立上りひきついで子供は必ず働きすぎない。私たちは日本の子供を働かすきにしたいとねがう。働く

ます行われ、それがつかかさねられてゆくならば、子供をきんなに幸福にし、それによつてどんなに教育が子供のなかにしみこんでゆくかはかり知られない。

ほんとに眞實を教育にこめてゆきたいとねがう私たちは、この實踐をつづけてみたいとねがう。それはけつしてたやすいことではない。いそがしい待遇がひくい——いろいろ云い分しあろうが、そこを克服して、子供とこもに生活し、あた

ことをよろこぶ子供にしなす。こもかくも私たちが働くこと——それが子供を働かすきにする一ばんちかい道だ。小さい子供たちが手をまつかにして雑巾をきりしているのに、教師は手をこまぬいてみおろしているようではほんとうの教育はできない。訓練さい、訓育さい、生活指導さい、ガイダンスさい——それもよからうがこの掃除を子供と一しよにやるこも——こもまた大きな力であり、すい分なきこもがあることは、私たちがやつてみるとよくわかることだ。そうすると教室にバケツやほうき、雑巾などがたらないで子供がこまつているといふことなどがあつてもすぐ氣づくことができる。子供はよく清潔をすゝめられるに、道具の不足をうつたえるものだ。そしてそんなこもで子供が私たちを信じなくなり、せつかくのかねての努力がすつかり水のあわになつてしまふこももある。

こうして掃除がおわると、子供たちをこもには校門までおくつてやるのもよい。はやくかえるようにささしてかえらせられるのもよい。おくれた子供をのこして三十分か一時間ぐらのおぎないのためにおしえてやるのは一そうよい。それで子供こもにはたらく時間がおわると、明日の指導計畫をつくり教材研究をし、今日の記録をかいて五時に下校して一日が終る。

こんなわかりきつた平凡なこもを私はここにかいてみたがこの平凡でわかりきつたことが、私たちによつてうますたゆ

たかないきをふきかけて、小さな草花の芽をそだてようこもるそんな心で子供をおしえみちびきたい。

そういうしごととは世に知られずほんごむくいられない。しかしそれをあえてやろうとするこもに（人間）こもしての私たちの生き方もたかめられてくる。さうかこれを——この實踐をもこもにしてよい教育を一人でも多くの人がされますように、私はふかく思う。

（五〇、一一、二一、）